

速報

553.661.1 : 550.8(522.4) : 622.1

宮崎縣五色鉱山硫化鉄鉱床概査

井上 秀雄*

Résumé

Kieslager Ore Deposit at Goshiki Mine, Higashi-Usuki County, Miyazaki Prefecture.

by

Hideo Inoue

The mine is localized in the mountainous land of Central Kyūshū, so traffic conditions are not good. Two ore bodies of kieslager are found there, consisting mainly of assemblage of small pyrite crystals. Average grade of crude ore is 30-35% in sulphur. It is a redeeming feature of this mine that ore grade is comparatively high, though the scale of each ore body is extremely small.

要約

本鉱山は宮崎縣東臼杵郡南郷村字上渡川に存し、いわゆる層状含銅硫化鉄鉱床で、2個の鉱体が認められる。鉱体は主として黄鉄鉱の小結晶の集合よりなる。粗鉱の見込品位 S 30~35%である。

鉱床としては規模の小さなものである。現在再開隊行の準備中である。

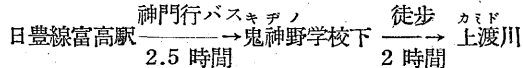
1. 緒言

昭和26年1月五色鉱山の硫化鉄鉱床の概査を行った。ここにその結果を報告する。調査の目的は再開の寸前で状況不明のため事業所の要望に應じ地質および鉱床の概査を行うことであつた。

2. 位置および交通

本鉱山は宮崎縣東臼杵郡南郷村字上渡川にある。すなわち東臼杵郡と西臼杵郡の境界近くで丸籠山(1,374.5 m)三方嶽(147.6 m)の南東東に位する。

本鉱山に至るには次の経路が便利である。

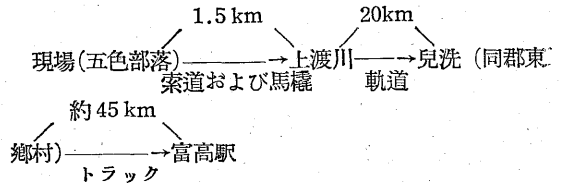


徒歩

→ 鉱山現場

40分

鉱石搬出予定経路



3. 沿革および現況

本鉱山は古くから採掘されたもので、その詳細は不明であるが、昭和初年頃同村前田某氏が銅を目的として採鉱した。その後二・三の変轉を経て帝國鉱業開發株式会社の経営となり、昭和18年頃閉山この間銅鉱石 600~700 t 硫化鉄約 1,000 t を賣鉱した。現在現鉱業権者は八幡製鉄所の援助を得て稼行準備中である。なお山元残鉱約 300 t 余がある。

五色鉱山

鉱業権者	堤 勇吉
住所	熊本市大江新町 154
鉱区番号	宮崎縣採登第 203 号
鉱区面積	274,600 坪

4. 地質

本鉱山一帯を構成する地質は下部より千枚岩質粘板岩・砂岩・頁岩互層・輝綠凝灰岩(?)等よりなる。千枚岩質粘板岩層および砂岩粘板岩互層は鉱山の SE に当る上渡川および門田部落附近に露出し、走向 N 60°~70°E 傾斜 N 45°~70°W を示し、千枚岩質粘板岩は剝理性に富み、やや軟質で黒色を呈する。砂岩頁岩互層は灰色を呈する細粒珪質の砂岩と黒色頁岩よりなり、その一層の厚さは砂岩 2~10 cm、頁岩 5 cm 程度で、稀に 1 m 余の中粒砂岩を狭むことがある。輝綠凝灰岩層は鉱床の NW および SE 方向に分布し、粘板岩層と漸移關係にあり、その走向・傾斜は複雑であるが、一般に N 40°~70° の走向で S に 30°~50° 傾斜する。鉱床附近ではその層理が甚だ不明瞭である。岩質は淡~濃綠色を呈し、珪化作用を受け堅硬である。肉眼的に方解石・綠泥石・綠簾石が認められる。以上各岩層は珪質時代未詳中生層に属するも

* 福岡支所

のと思われる。

5. 鉾 床

五色鉾山の鉾床は輝綠凝灰岩(?)と粘板岩の互層中にその層理に沿つて胚胎したいわゆる層状含銅硫化鉄鉾床である。銅分は少なく(貯鉾中に極く少量の黄銅鉾を認める),全般的に珪質で主な鉾体は2個よりなる。

第1鉾体は六坑,五坑,本坑を連ねる方向に延長して存する。

第2鉾体は本坑の一部に認められる。

第1鉾体は六坑・五坑・本坑・二坑・三坑の各坑道に部分的に認められ,鉾床の走向・傾斜は部分的には差異があるが,全体として走向EW,傾斜S落してある。鉾体の規模は幅10數m,厚さ數10cm~3m,延長100m(?)を有するもので膨縮の甚だしいレンズ状の鉾体で輝綠凝灰岩および粘板岩中に波状に胚胎されている。六坑・五坑の鉾体と本坑・二坑・三坑に現われる鉾体は同一鉾体の連続であろうと考えられる。

第2鉾体は露出延長約30mで,走向70°~90°E,傾斜65°S,厚さ2m±で粘板岩中に層状をなして胚胎している。

6. 品質および鉾量

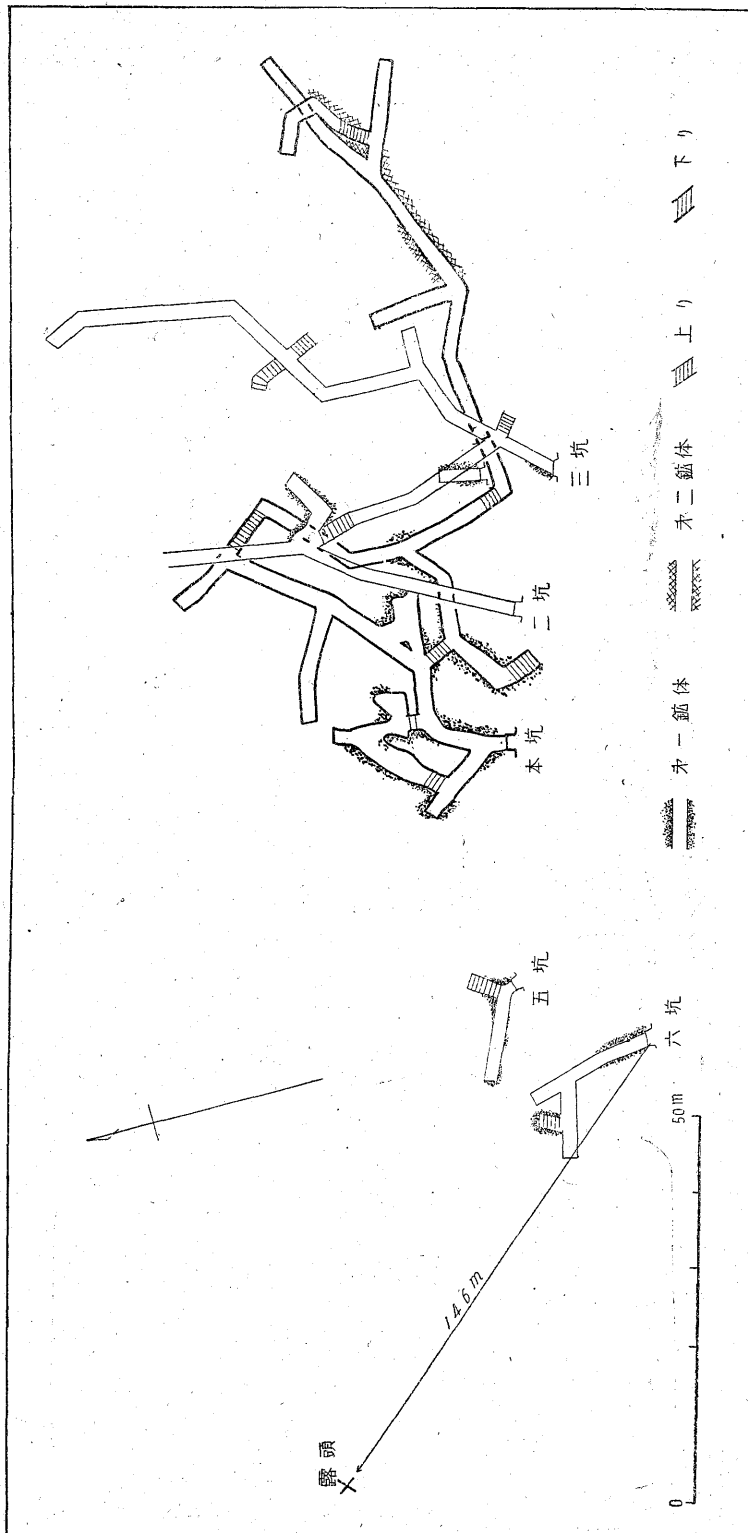
S含有30%~35%(見込品位) 鉾量計算は印刷省略す。

7. 鉾石

鉾石は含銅硫化鉄鉾で中粒~細粒黄鉄鉾の集合で銅鉾物は甚だ少ない。黄鉄鉾の粒間に白色不透明の石英が認められる。黄鉄鉾は通常経0.1mm~0.3mm程度の六面体結晶である。鉾石は淡黄色を呈し,母岩との境は明瞭なるため手選で容易に選別される。

8. 露 頭

第1および2鉾体とは別に六



第1圖 五色鉾山坑内實測圖 (延長554m)

坑坑口よりNW 40° 140 mの地点に1露頭がある。輝緑凝灰岩中に走向 N 80°E~EW, 傾斜 S 60°~75°を有し、露出している。その規模は幅 3 m, 露出面の高さ 6 m, 走向延長 2~3 m で黄鉄鉱の小結晶の集合でS見込品位 20~35%程度のものである。

9. 結 語

鉄床としては甚だ小さなものであるが、品位が割に高いのが利点である。鉄石の搬出は地理的状況甚だ悪く、困難をきたすものと思われる。(昭和26年1月)

553.57:550.8(521.85)

大嶺珪石の二・三の特徴について
(化学成分および顕微鏡的性質)

岩 生 周 一*

Résumé

On Some Characters of the "Ōmine"
Brick Silica Stone, with Special
Reference to Chemical Com-
position and to Microscopic
Features.

by

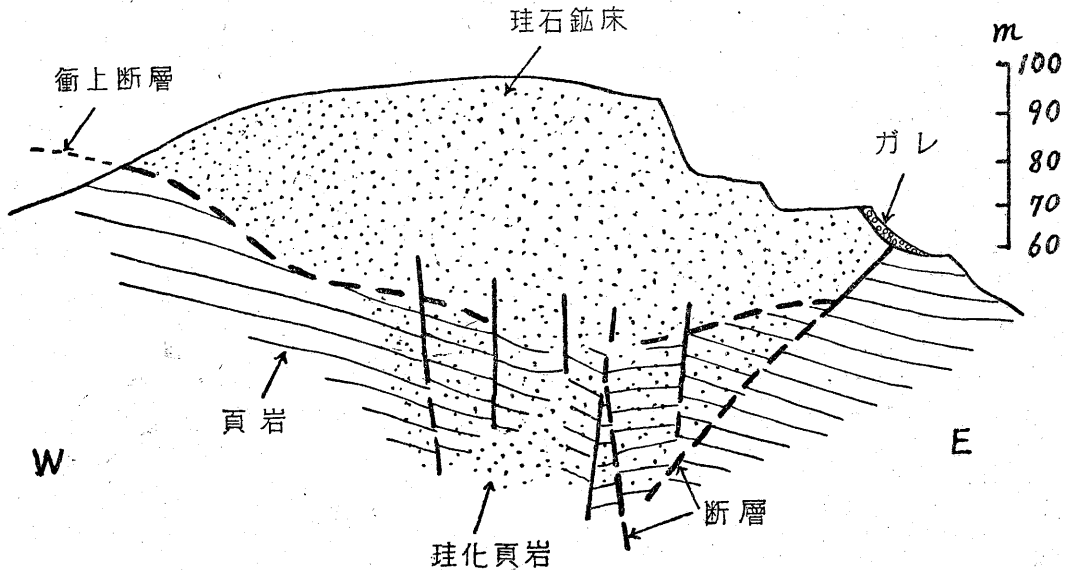
Shūichi Iwao

"Ōmine" brick silica stone, the "silicified" and purified chert, is very particular and quite different from the "Akashiro" compound brick silica stone which is the

major source for siliceous refractory brick raw-materials in Japan, in microscopic occurrence of the quartz veinlets, and of the minute impurities in the ore, as well as in the manner of transition of the chemical composition from the original chert to the silica stone.

Some genetical interpretation of the ore as related to those features is given in this paper.

大嶺珪石がこれを耐火煉瓦として使用する場合、いわゆる白赤珪石とかなり性質を異にする事は既に幾多の実験によつて明らかにされている。しかしその原因がどこにあるかについては鉄石の鉄物組成・組織・化学成分等を



第1圖 a 大嶺珪石南鉄床断面圖(岩生) (断層は大部分推定)

* 非金属課長